

News Release

つぎのミライは、
あなたの街から
はじまる。

NTT東日本グループ

2026年1月15日

中富良野町
NTT東日本株式会社 北海道北支店
株式会社ユニ・トランド

中富良野町との交通データ分析による町内交通再編に向けた取り組み ～地域交通利便性向上とEBPMの実現を目指して～

中富良野町（町長：小松田 清）、NTT東日本株式会社 北海道北支店（北海道北支店長：堂向 修司、以下「NTT東日本」）、株式会社ユニ・トランド（代表取締役社長：高野 元、以下「ユニ・トランド」）は、中富良野町が実施する「中富良野町交通データ分析による町内交通再編実証事業（以下「本事業」）において、交通空白地域の移動手段を確保し、地域の実情に合わせた持続可能な公共交通モデルの再設計・実証をEBPM※1（エビデンス・ベースト・ポリシー・マイキング）に基づき実施します。

本実証は、国土交通省が実施する令和7年度「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト（共創モデル実証運行事業）」を活用して行うものです。

※1 EBPM（「エビデンス・ベースト・ポリシー・マイキング」証拠に基づく政策立案）とは、政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで合理的な根拠（エビデンス）に基づくものとすることです。

（内閣府ホームページより <https://www.cao.go.jp/others/kichou/ebpm/ebpm.html> ）

1.概要

中富良野町は、人口減少や高齢化により、公共交通の担い手・利用者が減少し、従来の路線バスやスクールバスの維持が困難になっています。そこで、中富良野町は、町内の移動需要に応じて最適化された機動的・網羅的な町内交通網のあり方を検討し、地域交通の持続可能かつ効率的な運航を目指す取り組みを以下のステップで実施します。

- 既存のスクールバスや予約型乗合タクシーの運行データを分析し、移動需要を把握
- データ分析に基づき、移動需要に応じた路線の最適化と持続可能な交通手段の検討
- EBPMを活用し、持続可能な地域交通の再編案を立案・実行

2.実証内容

(1) ユニ・トランドが開発した車載器「QRコード乗降システム」をスクールバスに設置し、生徒ごとに付与されたQRコードを乗降口で読み取り、乗降データ（OD情報※2）を収集。クラウドにリアルタイム送信し、運行状況や利用傾向を分析・検証します。

※2 Origin（出発点）とDestination（到達点）の略で、人や車が「どこからどこへ」移動したかというデータ。

(2) 「バスロケーションシステム」と「QRコード乗降システム」を連携し、利用者がスマートフォンやPCでバスの位置情報をリアルタイムで確認。待ち時間短縮や利便性向上を実現します。



<二次元コードと車載スキャナー>



<スクールバス>

3. 実証期間（データ取得期間）

2025年11月1日～2026年2月27日（4か月間）

4. 各社の役割

- 中富良野町：地域公共交通の維持・継続に向けたデータ収集・可視化
- NTT東日本：システム設計・構築・導入支援・保守、データ分析
- ユニ・トランド：クラウドサービス・システム提供、データ収集基盤の構築・導入支援

5. 今後の展開

中富良野町は、取得データを活用し、持続可能な公共交通の運行を目指すとともに、継続的な改善を進めます。NTT東日本、ユニ・トランドは、ICT技術を活用し、地域交通課題の解決に貢献してまいります。